

令和3年10月20日

## 京都大学の学生に対する自然再生モデル林事業の普及について

10月20日に当センターが活動している自然再生モデル林の「樹種転換エリア」へ、京都大学の学生を案内しました。

事の起りは9月末に道局のHPを見た同大学の教授から、当センターのイベントに参加できないかとの連絡からです。生憎そのイベントはコロナにより中止となったことを伝え、遠方にもかかわらず何か事情があるのか尋ねました。

すると他国で混交林の造成及び維持の研究・活動を行っているが、生徒たちにも国内のフィールドで「森林をつくる」

と言う感覚を共有させたいとのことでした。こちらの活動フィールドは案内可能な旨を伝えると、後日、学生から調査依頼の連絡が入り、この日の対応となりました。

当日は樹種転換エリアの沿革と活動状況を資料に基づき説明してから現地へ向かいました。各



種団体により植栽された現地の様子を見ながら、常呂川流域の森林の特徴やどのような森林を目指すのか、また、その過程で地域住民やボランティアとの関わり等についてお話ししました。

特に「森林づくり塾」等のイベントで、下刈り等の保育や消失した植栽木の調査・補植を市民の手を借りて行っている状況を伝えました。

現地から戻り事務所で聞き取りの調査もあり、現在の高性能林業機械を使った森林づくりや、天然力を活用した多様な

森林づくりについてのやりとりを行いました。

今回の限られた時間の中で知ることの出来た事は多く、また機会をあらためて来たいと評価を頂きました。